

4. 宇治駅周辺地区のバリアフリー化への主な問題、課題

宇治駅周辺地区の現状を把握するため、ワークショップメンバーが実際にタウンウォッチング（現地点検）を行い、駅舎や道路の問題点や課題を抽出しました。

4 - 1. 公共交通

(1) 駅舎・鉄道車両

券売機の蹴込みが浅い。
ホームと電車の間に隙間がある。

3 駅の共通の問題点として、券売機の蹴込みが浅いことや洋式トイレの設置、ホームと電車の間の隙間の解消といった問題があげられています。また JR 宇治駅、京阪三室戸駅の券売機は、金銭投入口が複数枚の硬貨を同時に投入できるような構造になっていません。

京阪宇治駅では、視覚障害者誘導用ブロックの色や配置の仕方、駅舎内の照明の暗さなどの改善が求められています。

京阪三室戸駅については、入口の急なスロープの改善や多機能トイレの整備などが求められています。



券売機の蹴込みが浅い
(JR 宇治駅)



券売機の蹴込みが浅い
(京阪宇治駅)



ホームと電車の間に隙間がある
(京阪宇治駅)



ホームと電車の間に段差がある
(JR 宇治駅)



スロープが急である
(京阪三室戸駅)



多機能トイレが整備されていない
(京阪三室戸駅)

(2)バス・バス停

時刻表の文字が小さい。
経路図がわかりづらい。
バス停にバスがきちんと寄り付いていない。

バス停における共通の問題として、時刻表の文字や経路図の大きさがあげられています。また、バス停にバスがきちんと寄りついていないため、乗り降りに段差が生じるといった問題点もあげられています。

歩道上に設置されているバス停に関しては、雨よけのための屋根やベンチの設置が望まれています。



バス停にきちんと寄り付いていない
(JR宇治駅前広場)



経路図がわかりづらい
(JR宇治駅前広場)



時刻表の文字や経路図が小さい
(京阪宇治駅前広場)



バス停に雨よけの屋根がない
(市道宇治白川線)

4. 宇治駅周辺地区のバリアフリー化への主な問題、課題

4 - 2 . 道路・駅前広場

(1) 歩道のある道路

歩道上に障害物がある。

路面に凹凸がある。

歩道のある道路では、共通の問題として歩道上の障害物や路面の凹凸に関する問題があげられています。

市道宇治白川線や市道宇治橋若森線では、連続した視覚障害者誘導用ブロックの未整備があげられています。また、歩道の凹みやブロック舗装のがたつきといった、路面の維持管理の問題もあげられています。



植栽カバーに段差がある
(市道宇治橋若森線)



視覚障害者誘導用ブロックが
連続していない
(市道宇治白川線)



信号待ちのスペースが狭い
(市道宇治橋若森線)

(2) 歩道のない道路

路上駐車や看板・商品・照明柱がはみ出している。

車の進入が多い。

幅員が狭い。

宇治駅周辺地区には、カラー舗装などの整備はされているものの、歩行空間と車道が分離されていない道路があり、これらは生活動線・観光動線としてよく利用されています。

府道宇治淀線、府道宇治停車場線、市道宇治五ヶ庄線といった生活動線となっている道路では、路上駐車や看板・商品・照明柱のはみ出しなどが問題点としてあげられています。府道平等院線、府道宇治公園線、市道宇治18号線、市道乙方三番割線といった観光動線になっている道路では、車両の進入や幅員の狭さが問題点としてあげられています。



照明柱がはみ出している
(府道宇治淀線)



車の進入や駐車が多い
(府道宇治公園線)



幅員が狭い
(市道宇治18号線)

(3) 駅前広場

自家用車の乗降スペースが少ない。
 舗装と視覚障害者誘導用ブロックの色がわかりづらい。

J R 宇治駅と京阪宇治駅には駅前広場が整備されています。各駅前広場とも、概ねバリアフリー化は図られていますが、障がいのある人の視点では十分な整備とはいえません。

J R 宇治駅前公衆トイレでは、洋式トイレが設置されていない(一般利用者用)、自家用車の乗降スペースが少ない(狭い)などの問題点が挙げられています。

また、京阪宇治駅では連続した視覚障害者誘導用ブロックが整備されているものの、舗装との色がわかりづらいといった問題点があげられています。



自家用車の乗降スペースが少ない
 (J R 宇治駅前広場)



舗装と視覚障害者誘導用ブロックの
 色がわかりづらい
 (京阪宇治駅前広場)

4 - 3 . 交通安全施設

(1) 信号機

青時間が短く感じる。

宇治駅周辺地区の主な交差点の信号機は音響装置が整備されていますが、一部、音響装置が整備されていない信号機もあります。

また、計測してみると、必要最低限の青時間は確保されているのですが、青時間が短く感じるとの意見もありました。



音響装置のない交差点
 (宇治壺番交差点)



青時間が短いと感じる交差点
 (京阪宇治駅前交差点)

4. 宇治駅周辺地区のバリアフリー化への主な問題、課題

4 - 4 . 観光

宇治駅周辺地区には多くの観光客が訪れ、来訪者の視点でのバリアフリー化も重要な要素となっています。このことから、観光客が宇治を観光する上で感じていることを把握するために、ワークショップにおいて、観光客へのアンケート調査と、宇治市外に在住の身体に障がいのある方や外国人の方を招いてのタウンウォッチングを実施しました。

(1)来訪者の状況

平成12年度に宇治市では「観光動向調査」を実施しており、その調査結果から以下のような特性がうかがえます。

女性の方が多く、来訪者の年代は幅広く45～60歳が中心です。
 大阪府、京都府（宇治市以外）からの来訪者が4割弱を占めています。
 来訪者の主な交通手段はJR、京阪、自家用車です。
 来訪中は、主に徒歩で移動しています。

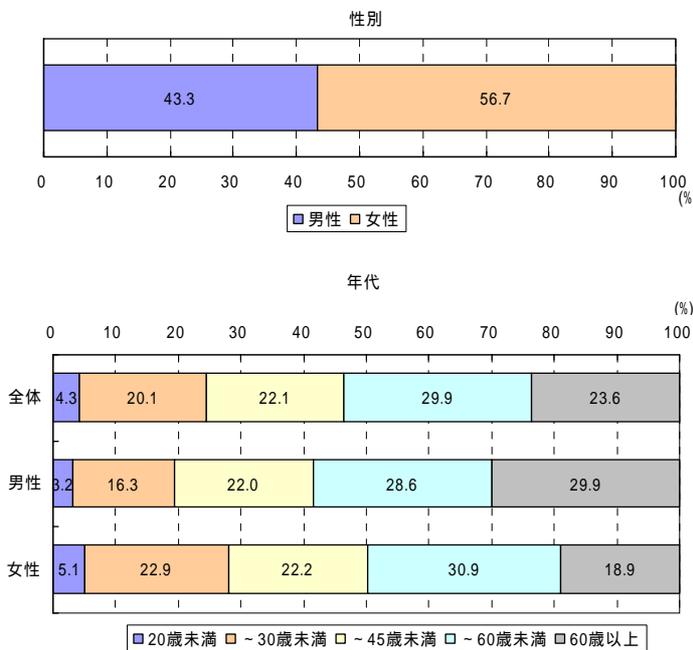


図 4-1 性別と年代

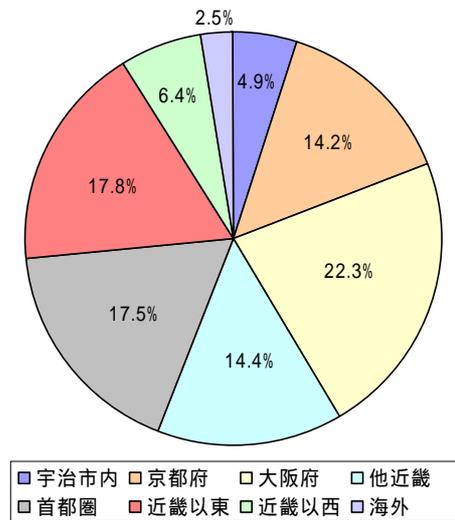


図 4-2 来訪者の居住地

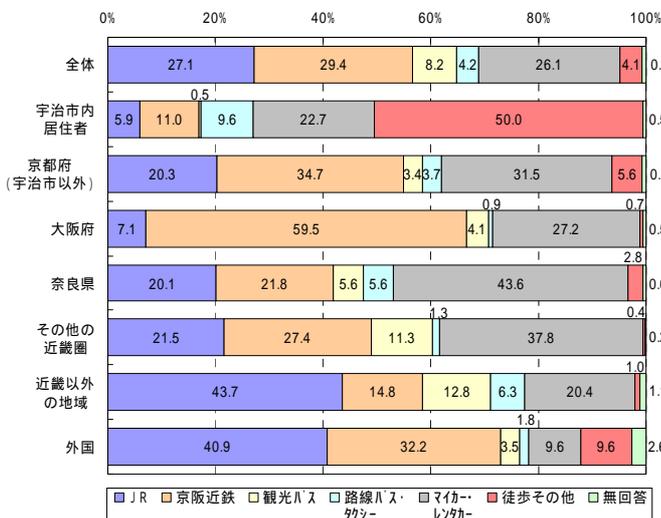


図 4-3 来訪の際の交通手段

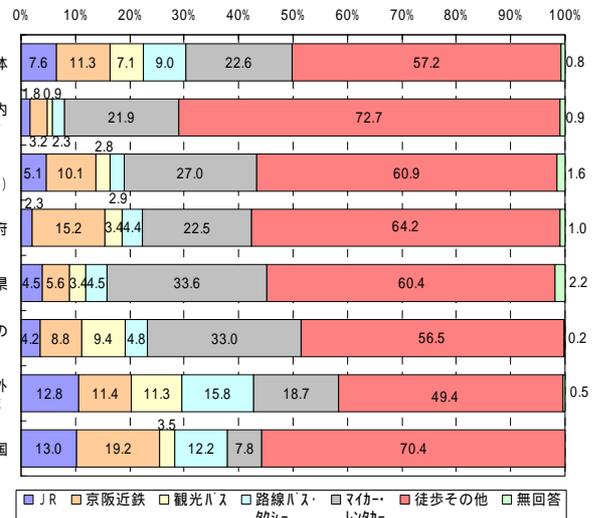


図 4-4 来訪中の移動手段

(2)観光客アンケート

平成18年4月8日(土)、ワークショップにて平等院や宇治上神社周辺を散策中の観光客にアンケートを実施しました。94名の回答者のうち、宇治市外から来られた方71名を対象に、宇治の観光に関する課題を整理しました。

歩行者と自動車の混在する経路が多くあります。
 駐車場、トイレなどの施設案内やサインが不足しています。
 トイレ、休憩場所などの施設が不足しています。
 階段や段差、砂利道が多く、車いすやベビーカーでの通行が困難です。

観光客の約60%が自宅や駅前での情報提供を望んでいることから、インターネットや駅前での情報案内の充実が課題となっています。情報提供の内容としては、食事に関する情報の充実に望む人が24%を占めており、その他の内訳として駐車場案内やイベント情報、桜の開花状況に対する要望も多くうかがえます。

また、宇治の観光について自由な意見をうかがったところ、幅員の狭い観光経路内への車の進入や、トイレや駐車場などへの案内が不足しているといった意見が多くあげられました。平等院や宇治上神社などは砂利道や石畳となっていることから、車いすやベビーカーでの通行も困難な状況となっています。

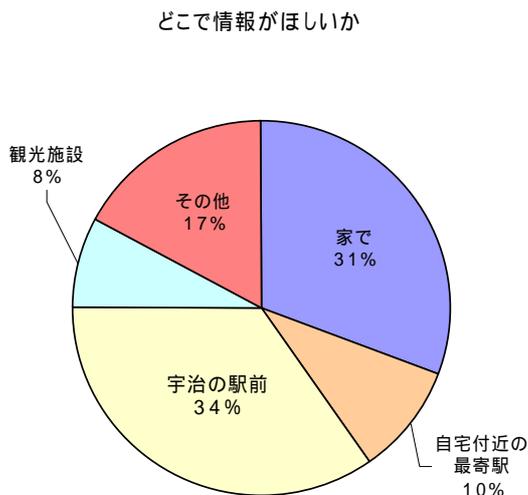


図 4-5 情報提供場所の要望

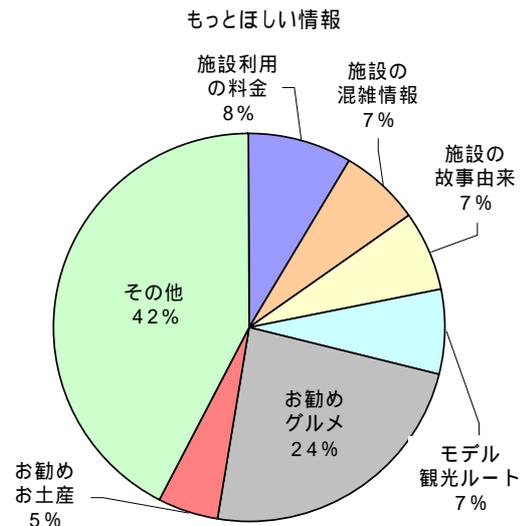


図 4-6 情報提供の要望内容



観光客アンケートの様子
 (源氏物語ミュージアム)



観光客アンケートの様子
 (平等院表参道)

(3)観光客タウンウォッチング

平成18年4月8日(土)、ワークショップにて宇治市外に在住の身体に障がいのある方々(視覚に障がいのある人:1名、車いす使用者:2名)や外国人の方々(韓国からの留学生:3名)を招いて、タウンウォッチングを実施しました。ワークショップメンバーとともに平等院や宇治上神社などの観光施設を訪れ、それぞれの視点から課題を抽出していただきました。

《JR宇治駅》

観光パンフレット等を自由に取れない。

総合案内板として、観光地内のトイレ位置の表示がない。

《宇治橋通り商店街》

車の通行や路上駐車、看板などの占有物が多い。

観光施設への案内表示がない。

《平等院》

模型があると施設像がわかりやすい。

ブロック舗装の目地が粗い。

《京都府立宇治公園》

朝霧橋が階段になっており、車いすでは利用できない。

《観光センター》

入口にトイレの表示がない。

《宇治上神社》

音声案内の位置が低く、音声も小さい。

幅員が狭いにもかかわらず車の進入が多いことから、特に視覚に障がいのある人にとって一人で宇治を観光することが困難となっています。また、英語表記やトイレ案内など、施設案内が不足しているため、外国人をはじめとするすべての観光客にとっても気軽に観光を楽しむことは難しい状況です。平等院周辺は石畳やブロック舗装となっているため、車いす使用者にとっては通行が困難となっています。



視覚障がい者によるタウンウォッチング
(府道平等院線)



車いす使用者によるタウンウォッチング
(観光センター)

4 - 5 . 宇治駅周辺地区の主な課題のまとめ

現地調査結果及びこれまでのワークショップの意見を踏まえて、宇治駅周辺地区の主な課題を以下のとおり整理します。

各駅の利用しやすさの向上

京阪三室戸駅では車いす使用者がトイレを利用できないなどの課題があり、バリアフリー設備の整備が必要です。

J R宇治駅、京阪宇治駅ではエレベーターや多機能トイレの整備など一定のバリアフリー化が図られていますが、エレベーターの位置案内や外国語表示も含めた案内誘導設備の充実など、すべての人に対する利用のしやすさの向上が望まれます。

駅前広場等のバリアフリー化

J R宇治駅、京阪宇治駅ではバスターミナル機能をもつことから、案内誘導施設の充実など駅前広場の利用のしやすさの向上が必要です。

バス停では、時刻表の文字の大きさや経路図の見やすさの改善が必要です。

歩行空間（歩道）の確保とバリアフリー化

幹線道路を中心に歩道整備が進んでいますが、歩道のない経路でも商店街など、利用者の多い経路があります。歩行空間の確保が課題となっています。

既に設置されている歩道についても路面の凹凸や急勾配の箇所があり、バリアフリー化への課題が残っています。

主な交差点の信号機は音響装置が整備されていますが、一部、音響装置が整備されていない信号機があり、課題となっています。

さまざまな利用者を想定したアクセス機能のバリアフリー化

世界遺産である平等院、宇治上神社をはじめとする歴史文化施設が集積し、市外からの観光客が多い地区です。このため、施設への経路案内の充実や回遊動線の確保などが必要です。

市の「中枢拠点」として、官公庁施設をはじめ医療・福祉施設など、多数の施設が集積しています。このため、市内各地からのアクセスを考慮したバリアフリー化が必要です。

ソフト的な施策によるバリアフリーの推進

歩道が整備されていても利用者のマナー不足がバリアとなります。一方、歩道が未整備であっても、利用者の心づかいでバリアは低減されます。市民一人ひとりがバリアフリーについて理解し、協力する“心のバリアフリー”の推進が必要です。

来訪されるすべての人がまちを楽しめるよう、案内や情報のバリアフリー化が必要です。トイレマップなどの情報提供ツールの充実や地域住民による案内の手伝いなど、ソフト的な対応による案内情報のバリアフリー化に取り組む必要があります。